

ICTの提供による社会の持続可能性と生物多様性への貢献

ATMリユーススキーム

富士通グループのSDGsへの取り組み

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）は、世界全体が2030年までに達成すべき共通の目標です。富士通のパーパス「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていこう」とは、SDGs達成への貢献を社内外に約束するものです。富士通は、長年にわたりテクノロジーを通じて社会に価値を提供してきたグローバル企業として、社会の変革に主体的に貢献する責任があります。世界をより持続可能にするために、社会に対して、より良い、かつスケールの大きなインパクトを与え、自社も持続的に成長していくことを目指しています。富士通は、2023年5月に発表した中期経営計画において、2030年に向けた価値創造の考え方を示しました。必要不可欠な貢献分野（マテリアリティ）の「地球環境問題の解決」「デジタル社会の発展」「人々のウェルビーイングの向上」への取り組みを通じ、SDGsへの貢献を目指します。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/sdgs/>

持続可能な開発のための2030アジェンダ

「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals : SDGs) を中核とする「持続可能な開発のための2030」は、平成27(2015)年9月25日に、ニューヨーク・国連本部で開催された国連サミットで採択されました。

SDGs(Sustainable Development Goals)

2030年に向けて持続可能な開発に関する地球規模の優先課題などを明らかにした目標です。17の目標と169のターゲットで構成されています。ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals : MDGs）とは異なり、先進国を含む全ての国に適用される普遍性が最大の特徴です。

環境との関連

複雑に絡み合う社会・環境課題に対応していくためには、環境・経済・社会の3つの課題を総合的に取り組む必要があります。環境省では、17の目標のうち、気候変動、持続可能な消費と生産（循環型社会形成の取組等）等、少なくとも、12の目標が環境に関連しているとしています。



ICTによるSDGsへの貢献

富士通グループは、クラウドシステム、モバイルコンピューティング、電子政府など、様々なICTの提供を通じて、国内外のお客様とともに、SDGsへ貢献してまいります。

「環境貢献ソリューション」認定制度のご紹介

富士通は、富士通グループが提供するソリューション・サービスの導入によるGHG排出量の削減効果を定量評価し、削減効果が15%を上回る商品を「環境貢献ソリューション」として認定してきました。現在もGHG排出量の削減効果を算定し毎年報告しています。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/sustainability-contribution-list/>

環境貢献

検索



ATMリユーススキーム

「ATMリユーススキーム」は、リブレース時の古いATMから使用可能なユニットを回収し保守用ユニットとしてリユース（再利用）する、サーキュラーエコノミー（循環型経済）の実現に貢献するソリューションです。従来、ATMのリブレース時に金融機関様では古いATMを直接産廃処理業者と委託契約し、廃棄していました。当ソリューションの導入により、ATMのサービスを展開する当社が古いATMを引き取りユニットを回収し保守用ユニットとして再利用（リユース）することが可能です。これにより、リユースした分だけ保守用ユニットの新規購入量を削減するとともに、ユニットをリユースすることで省資源化と資源循環に貢献します。今回、当ソリューションの導入前後における「モノの消費」を基準に、CO₂排出量の削減効果を評価しました。

「環境貢献ソリューション」の提供により、SDGsへ貢献します。

「環境貢献ソリューション」の取り組みは、目標13：気候変動へのアクション（気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。）への対応として、推進しています。富士通グループは、「環境貢献ソリューション」の提供を拡大し、SDGsに貢献します。



ATMリユーススキームによるサーキュラーエコノミーへの貢献と環境負荷の低減

システム概要

「ATMリユーススキーム」は、リプレース時の古いATMから使用可能なユニットを回収し保守用ユニットとしてリユース（再利用）する、サーキュラーエコノミー（循環型経済）の実現に貢献するソリューションです。

従来、ATMのリプレース時に金融機関様が古いATMを直接、産廃処理業者と委託契約し廃棄していましたが、当ソリューションは、ATMサービスを展開する当社が古いATMを引き取り、分解してユニットを回収し、保守用ユニットとして再利用（リユース）することが可能です。

これにより、リユースした分だけ保守用ユニットの新規購入量を削減するとともに、ユニットをリユースすることで省資源化・資源循環に貢献します。結果、サーキュラーエコノミーの実現に貢献するとともに、ユニットの新規購入量を削減した分のCO₂排出量の削減につながります。

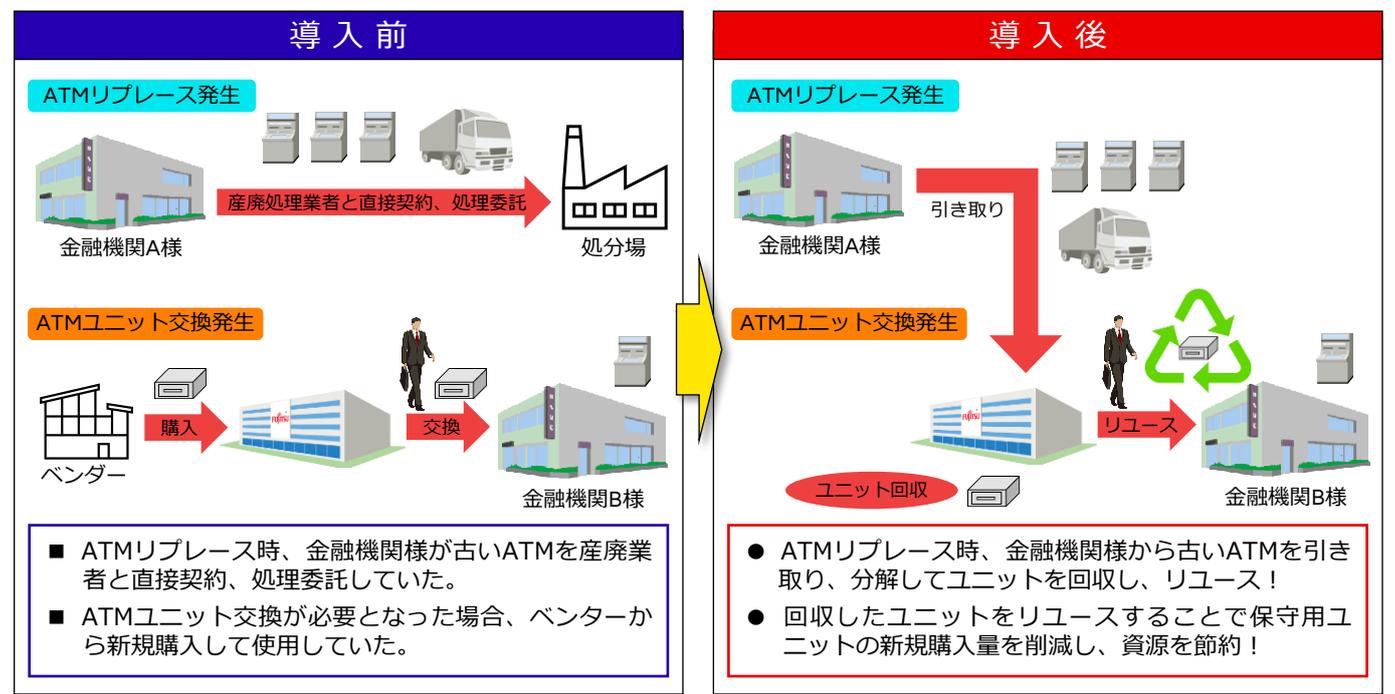
効果

- ・ CO₂排出量の削減効果：100% ※富士通フロンテック試算
- ・ 保守用ユニットの新規購入量の削減 ※ATMから回収・リユースした保守用ユニットを基準として試算
 - 【導入前】保守用ユニットの新規購入台数 805台/年（2023年度）
 - 【導入後】保守用ユニットの新規購入台数 0台/年（回収・リユースした分の新規購入が不要になった）
 - ➡結果、805台/年の削減

※上記の効果は、現時点で富士通フロンテックが試算したものであり、システムの特性により結果が異なることを予めご承知おきください。

ATMリユーススキームの導入によって、何故、サーキュラーエコノミーに貢献できるのか？

◎ 回収・リユースした保守ユニット分だけ新規購入が不要となり、省資源化・資源循環につながります。



お問い合わせ先

富士通フロンテック株式会社

サービス事業本部 第三サービス事業部

Webによるお問い合わせ： <https://www.fujitsu.com/jp/group/frontech/contact/>